

5. 館内案内英語部会活動報告

1 はじめに

私たち英語部会は来館された外国の方に対し、博物館の各種施設、および日本とアジアの歴史に親しんで頂き、理解を深めて頂くことを活動の目的とし、英語での館内案内に加え、お客様のご要望に応えるべく4階常設展の案内も行い、博物館の運営を支援すると共にメンバーのスキルアップや、他部会との交流も図ってきた。特に第3期においては、館内案内の再徹底と4階常設展説明のスキルアップに力を注いできた。これまでの活動実績について、以下に報告する。

2 部員の構成

第2期：11名（女性6名 男性5名）

第3期：14名（女性8名 男性6名）

3 活動状況

3.1 概況

3期の活動は2011年4月にスタートした。最初は何をしていいかわからず不安な思いをしたが、2期の方からアドバイスを受けたり、経験を重ねるにつれて博物館にも慣れていき少しずつ案内ができるようになっていった。また、3期の活動を開始する際に、館側より館内案内が英語部会の基本的な活動であるとの話があり、改めて1階のボランティアカウンターを活動の拠点とし、活動することを徹底した。

メンバー同士も部会、社内研修の場を通し交流を深めていき、団体の予約が入った時はチームを組んで対応するが、二年目からは3期主体での対応も少しずつ可能となった。バックヤードツアーや茶室の案内などは2期、3期共同で事前の勉強会等、準備を行い団体予約への対応を滞りなく行うことができた。

外国人来館者への対応実績においては、団体予約も含めるとコンスタントに行えたが、個別対応では2011年は東日本大震災の影響でしばらく減少し、2012年は政治的な緊張が高まった頃に同じく来館者数が減少した。2013年は少しずつ来館者数が戻ってきており、対応数も増えつつある。



団体予約対応 館内案内



茶室案内



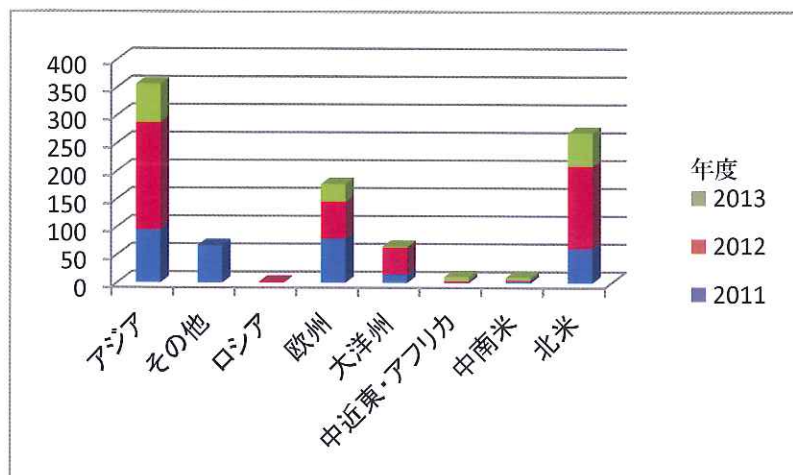
4階展示室前案内



エントランスホール案内

3.2 具体的な活動内容

英語で対応した外国人の来館状況



アジアからの来館者が最も多かった。フィリピンやシンガポール等の英語圏が多いが、最多は韓国の99名。台湾も46名であり、英語が万国共通語であることを改めて認識される結果となった。欧州では英、仏、独からの来館者が多い結果となった。

月別対応来客数の推移



団体予約も徐々に増え、変動はあるがコンスタントに来館者対応が行えるようになった。2011年は東日本大震災、2012年は政治的緊張の高まりで来館者が減少しており、世相を反映する結果となった。

4 館内研修

英語部会では毎月第四土曜日の部会後にネイティブの先生の指導のもと2時間の英語研修を実施してきた。研修費用は博物館に負担して頂いているが、研修内容は部会のメンバーで検討し、教材も自ら準備した。現在は主に4階の常設展示物案内のスキル向上を目指して学習している。



研修風景



Kamada 先生と参加メンバー

5 館外研修

日頃のボランティア活動の資質向上を目的とし、且つメンバー間や他部会との親睦や勉強を兼ねて、年に数回館外研修を実施、県内外の史跡を訪問し知識を深めると共に、現地ボランティアや学芸員との交流を重ね互いの資質を高めあった。具体的な訪問場所は以下の通りである。

2011年度・・・太宰府歴史散策

2012年度・・・平塚川添遺跡

鞠智城、装飾古墳館（熊本県）

2013年度・・・博多まち歩き

オランダ商館、切支丹資料館（長崎県 平戸）



鞠智城



博多まち歩き



平戸



太宰府史跡探訪

6 おわりに

3期の活動において、メンバー間の連絡がスムーズになるよう名簿とメーリングリストを作成、合わせて定例会等の館側からの情報をメールで流すようにした。情報伝達は徹底できたが、部会の参加者が徐々に減っていくという課題が出てきた。部会を単なる情報伝達ではなく、意思決定の場、有意義な活動を行うためのアイデアを議論する場となるよう努めてきたが、今後も継続し活性化させる必要がある。

各個人においても英語案内のスキル向上に、より一層の努力をすると共に他部会とも交流を図り、また来館者にも喜んで頂けるよう努力していきたい。それが引いては英語部会メンバーの自己実現につながることを期待したい。

最後に、常に暖かく支援頂き、一緒に行動して頂いた2期の皆さん、我々の要望を真摯に聞いて頂き、館内研修の実施等にご協力頂いた交流課の皆様にご心より御礼申し上げます。